

市内で麻しん（はしか）患者が発生しています

1 麻しんの症状等について

感染すると約 10 日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。2～3 日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発疹が出現します。肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者 1,000 人に 1 人の割合で脳炎が発症すると言われています。

2 感染経路

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で、ヒトからヒトへ感染が伝播し、その感染力は非常に強いと言われており、感染する時期は、発症の 1 日前から解熱後 3 日後までとされています。

免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

また、現在、1 歳（第 1 期）と小学校入学前年度（第 2 期）に、MR ワクチンの定期予防接種を実施しており、予防接種をしていれば感染するリスクは少なくなります。なお、本市では第 1 期では 99.3%、第 2 期では 93.3%の方が MR ワクチンを接種しています（平成 28 年度実績）。

3 潜伏期間

約 10 日～12 日間

4 治療

特異的な根治療法はなく、対症療法を行います。

5 市民の皆様への注意点

麻しんを疑う症状があった場合は、必ず受診前に医療機関に連絡し、麻しんを疑う旨を伝えた後、医療機関の指示に従い早急に受診してください。また、受診の際は、周囲に感染を拡げないように公共交通機関の利用は避けてください。

[参考]

予防接種施策の状況から見た接種状況

- 平成 2 年 4 月以降生まれ 28 歳以下の人は制度上 2 回接種
- 昭和 47 年 10 月から平成 2 年 3 月生まれの人（28 歳以上 45 歳までの人）
制度上 1 回接種
- 昭和 47 年 9 月以前の生まれの人（45 歳以上の人）
制度上ワクチン接種はないが多くの方が麻しんにかかった
経験（免疫）あり